

Between アンテナ

大学情報をまとめて紹介



千葉工業大学

分野横断型の新たな研究拠点を設立

千葉工業大学は2021年11月、津田沼キャンパス内に分野横断型の研究拠点「変革センター」を設立した。センター長には、マサチューセッツ工科大学メディアラボ元所長・伊藤穰一氏が就任。科学技術の進歩をよりよい社会づくりに生かすため、あらゆる分野の研究者を集め、領域の垣根を越えて、これまでになかった研究を行うことで、新しい技術的なプラットフォームや文化的なアウトプットを想像・設計・構築する。研究分野としては「政府のデジタルトランスフォーメーション」「サイバー空間ガバナンス」「ナレッジ・マネジメントと学術出版の未来」などを挙げている。研究員は、伊藤氏のほか、メディア美学研究者の武邑光裕氏など4人。客員研究員として、クリエイティブ commons の提唱者であるローレンス・レッシング氏など、22人も参加予定。



名古屋文化短期大学

海外連携3大学共同グローバルプログラム

名古屋文化短期大学は、海外の3つの4年制大学と連携し、4年間で3つの学位が取得できる「3大学共同グローバルプログラム」を2020年度から実施している。これは、日本、台湾、イギリスの3か国の大学が共同で1人の学生を教育するという発想の下、1年次は日本、2、3年次は台湾、4年次はイギリスで学ぶ。「2年で学修を終える短大だからこそ、4年制大学のプログラムとの接続を考えやすい面があった」と牧野卓司国際センター長は語る。現在、1期生4人が中華大学で台湾人学生約20人とイギリスへの進学をめざして学修中。本年2月には2期生6人が台湾に向け出発する。2期生からは留学生生活をより充実させるべく中国語を通年履修にしている。



台湾への出発式の様子



えいけい

叡啓大学

スタンフォード大学SPICEと連携授業を実施

叡啓大学は2022年3月から、スタンフォード大学SPICE(スタンフォード大学国際相互文化教育プログラム)、県立広島大学大学院経営管理研究科(HBMS)と三者共同で、課題解決型演習を実施する。叡啓大学は2021年4月に開学した、ソーシャルシステムデザイン学部を設置する広島県の公立大学。同大学では「実社会のリアルな課題に挑むPBL」を、アントレプレナーシップ教育を行ううえで、重要なカリキュラムと位置付けている。スタンフォード大学SPICEは、同大学で1976年に開設された、初等教育から高等教育までのカリキュラムの開発、遠隔学習コースの開発等を行う部局だ。

このプログラムでは、叡啓大学の1期生とHBMSの学生および卒業生が、同じテーマで課題解決型演習に臨む。授業は全4回で、スタンフォード大学ビジネススクールやシリコンバレーから4人のアントレプレナー人材を招いて特別講義を受けつつ、グループワークを行い、最後にその成果を発表する。



福島大学・山形大学

オンライン活用で授業を相互提供

福島大学人間発達文化学類と山形大学地域教育文化学部は、2022年度からオンラインや録画データを活用した授業の相互提供を始める。少子化に伴って教員の人員削減が進む中、多様な分野の授業を学生に提供し、教育の質を高めるのが狙い。当面は実際の授業を録画してクラウド上に保存し、相手の大学の学生に視聴してもらう形でスタートさせ、将来的にはオンライン講義も検討しているという。学生にはレポート提出などを求めたうえで、通常の授業と同様に単位を認定する。2022年10月から試験的に1コマの授業を録画して提供し合い、2023年度から複数の授業に拡大する予定だ。



追手門学院大学

ペンシルバニア大と「オンライン留学」協定

追手門学院大学はこのほど、ペンシルバニア大学のCollege of Liberal and Professional Studies(Penn LPS)と「Online Learning」(Penn LPS Online)に関する協定を締結した。同大学は、教育DX推進の一環として、「オンライン留学」を正規科目として拡充すると発表している。この協定により、学生は渡航しなくても「Penn LPS」が開講する約100の人文・社会学系の正規科目の中から選択履修し、単位認定を受けることが可能になる。認定される単位数の上限は10~20単位程度を検討しているほか、受講できる学生も、2022年4月に開設する国際学部をはじめ他学部の学生にも広げていく意向だ。